

新年賀詞交歓会報告

総務部 酒井 圭一

新春10日、赤坂のホテル ニューオータニで開催された駒澤大学教育後援会主催の新年賀詞交歓会に出席しました。

受付で黄色いリボン（駒澤会のメンバー用）を受け取り、福引の半券をポケットに収めて定例10分程前に会場に入ります。木管五重奏団の柔らかな音色が静かに響きます。新年の厳粛な気分が漂います。そう、例年は野球部の活躍や陸上競技部の駅伝の成果をスクリーンや大音響でデモンストレーションしていました。今年はしつとりと本来の意味の新年賀詞交歓会であることを認識した一瞬でした。

教育後援会、ご来賓の学校当局の方々のご挨拶は昨年の反省と再出発に触れた厳しい内容が多くありました。しかし、学校から今日は十分に楽しんで行って欲しいとのお話は大切な転換の時であることを確認する大切な一言であったと思います。

乾杯の後はホテル自慢のお料理を頂き、皆々談笑を楽しみ、更に湯川こずえさんの秋田長持歌を始めとする民謡・ジャズの演奏をバックに会は盛り上がりました。

最後の盛り上がりは福引でした。幹事さんが苦勞して集められた品々の他、ホテル提供の豪華賞品が各々引き当てられて、お開きに。記念撮影は人数が多いのでシャッターを切るまでが大変。満足した顔の面々は二次会（カラオケ）に伺いました。

今年の賀詞交歓会は祝賀会ではなく、本当に賀詞交歓、一年の計を静かに確認する良い機会だったと思います。

尚、私は福引で二等任天堂のゲームをゲットしました。どうもありがとうございました。



平成21年駒澤大学教育後援会新年賀詞交歓会 (於)ホテルニューオータニ 平成21年1月10日(土)

会 員 紹 介

駒澤会総務部委員として活躍されている、一戸隆男さんを今回は取材させていただきました。限られた時間でしたが、質問には分かりやすくお答えくださり感謝しております。もちろんやさしいお人柄や仕事のスケールの大きさにも改めて感心です。

昨年の「初夏の親睦会」では講道館見学や夕食会におきまして一戸さんには御尽力いただきました。柔道着の一戸さんの姿を初めて見た方も多かったと思います。柔道8段！講道館高段者会会長代行に就任されました。拓殖大学柔道部OB会会長もされています。

仕事はビルメンテナンスが本業で、他に医療関係の人材派遣業もされています。ビルメンテナンス業では約620社を取りまとめる社団法人東京ビルメンテナンス協会会長でもあり、全国3300社の協会副会長、アジア連盟と世界連盟の副会長も務めていらっしゃるそうです。

柔道を始めるきっかけは、小学4年のとき中学生との「ケンカ」で負けて帰ってきたときに、お母様が枕元にそっと置いてくれていた柔道着がきっかけだそうです。御両親は柔道には縁がなかったそうですが、柔道の稽古をサボると大変怒られたそうです。柔道着は学生の海外遠征の引率の際、現地を着るそうですが、お忙しい毎日でも大会主催者を務めながら、柔道を愛し大切にされています。

忘れられない大学時代の思い出は、4年生の柔道部主将になった年の大学対抗試合前日の辛さで、強豪校の伝統を守らねばならないこと、また、それを自分の代で崩してはならないプレッシャーとの戦いだったそうです。試合結果は、無事伝統を守り「優秀選手賞」を頂くことが出来たそうです！当時のライバルたちは今では各大学の監督として後進の指導をしているとのことでした。

柔道を通して就職する仲間が多い中、一大決心で今の仕事を一人で築き上げられたことは、本当にご苦労が続いたことと思います。休日の過ごし方は？などと聞いてしまいましたが、書類整理に追われ、のんびりとはいかないのは当たり前のようでした。もちろんこの休日には柔道の大会に関わる仕事もこなし、まさにアクティブな毎日を過ごされています。外国航路の船員だったお父様から海が大好きな面を受け継がれ、御自身が所有するクルーザーで船出されたこともあるとのこと。奥様、お二人のお子様、ジャックラッセルテリア2匹との素敵な家庭です。

教育後援会で多くのことを学び、仲間が増え、たいへんお世話になったことから、駒澤会も大切にしていきたいと考えているそうです。職業や性格の異なる集団で勉強できること、また日常経験できない行事の企画など、貴重な体験をさせて頂きました、と話されました。一戸さんからは、「自分にまだある隠れた才能を発見できる場が教育後援会や駒澤会である」との素晴らしい言葉をいただきました。

広報部



総務部 一戸隆男さん

禅文化歴史博物館所蔵品紹介



禅文化歴史博物館 平成 14 年（2002 年）開設

東京都選定歴史的建造物「耕雲館」を保存・活用。本学開校 120 周年記念事業の一環。平成 18 年（2006 年）博物館相当施設として指定された。入館無料、開館時間＝月～金 10～16：30
休館＝土日祝日大学の定める休業日（8 月を除く第 3 土曜日は開館）

禅文化歴史博物館蔵品目録より<絵画・墨蹟編 1>



涅槃図 紙本着色 縦 213 ㌢ × 225 ㌢

品川区の天竜寺に 1763 年寄贈された涅槃図。この後 1883 年 7 月 15 日曹洞宗大学林専門学校の什物として寄贈され、現在本学で所蔵。

涅槃図は釈迦の入滅の場면을図像化したもの。釈迦は 2 月 15 日に入滅したとされ、日本では古来より宗派の別に関係なく涅槃図を掲げ釈迦の遺徳をしのぶ涅槃会を営んできた。



山口雪溪（せっけい）画

卍山道白賛（まんざんどうはく）

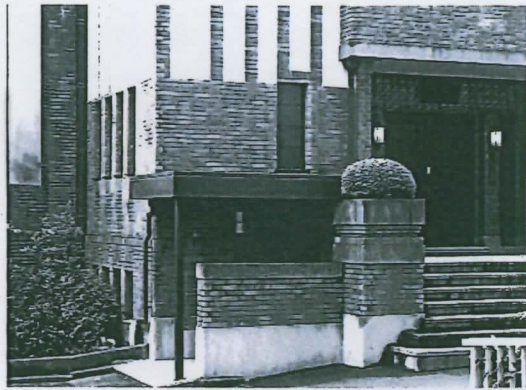
香巖撃竹大悟図（きょうげんげきちくたいごず）

山口雪溪は狩野派の影響を受けた水墨画家。卍山道白は江戸中期の曹洞禅僧。備後国出身。



風外慧薫（ふうがいえくん）画賛 布袋図
絵本墨画 62.5センチ×25.4センチ

風外慧薫は江戸前期の曹洞禅僧。上野国出身。絵画にたけ、とくに達磨の絵と布袋の絵は有名。布袋は中国の後梁時代に実在した禅僧。常に布袋を携え、袋には身にまとう物や喜捨された物のうちで余ったものをたくわえていたという。吉凶や晴雨を占う能力があり、弥勒菩薩の化身と称された。



博物館正面入口



千利休筆 書状

絵本墨書 27.8センチ×35.1センチ

千利休は安土桃山時代に活躍。(1521~91)

利休流茶道の祖。和泉堺出身。信長・秀吉の茶頭となり、天下一の茶人としての地位を築いた。

この書状は利休が秋孫入道に宛てたもの。年代及び秋孫入道の詳細は未詳。この書状で、利休は秋孫入道の上洛と対面を依頼している。

事務局からのお知らせ・お願い

新理事長就任のお知らせ

平成 21 年 1 月 30 日佐々木孝一（ささきこういち）氏が就任いたしました。

維持会費 5,000 円振込のお願い

平成 21 年度維持会費 5,000 円の振込用紙を委員総会開催通知と共に送りました。紛失等された方は事務局までお知らせ下さい。未納の方は至急振込をお願い申し上げます。

卒業生及び入学者数

平成 21 年 3 月 25 日卒業生数

学 部 3923 人（短大 2 名を含む）

大学院 88 人

本年 3 月をもちまして短期大学は廃校となりました。



体育館 3 階アリーナ席より

平成 21 年度入学者数

学 部 3,693 人

大学院 86 人



21.4.2 入学式（新入生代表の言葉、中央：石井学長）

駒澤会奨学金について

平成 21 年度も一人 20 万円を 25 人に、総額 500 万円の奨学金が支給されました。奨学金授与式は 7 月 21 日（火）に東條学生部長・駒澤会会長・副会長出席のもと執り行われました。詳細は次号（13 号）でお知らせいたします。平成 21 年 3 月卒業生のご父母から多くの入会金（奨学金基金）をいただきました。改めて御礼申し上げます。

駒澤会参与（教育後援会会長・副会長）交代のお知らせ

平成 21 年 5 月の教育後援会総会におきまして、教育後援会会長・副会長が任期満了により交代となり、次の方々が承認されました。駒澤会参与として、本会の運営にお力添えをお願い致します。



千葉宏隆 参与
（教育後援会会長）



飯島一人 参与
（教育後援会副会長）

WEB履修登録スタート

本年度から駒澤大学ではパソコンによる WEB 履修登録をスタートしました。毎年教務部窓口には学生の長蛇の列が来ていましたが、今年からは学生が自分の PC から操作出来るようになりました。教務部前に設置された数十台の PC は教育後援会からの寄贈です。



地方入試が始まります

駒澤大学では、平成 22 年(2010 年)2 月 4 日(木)を全学統一日程入試とし、全国 6 都市で駒澤大学が受験できるようになります!

入試会場は、東京(本校)・札幌(秀英予備校札幌校)・仙台(仙台商工会議所)・新潟(朱鷺メッセ)・名古屋(秀英予備校名古屋校)・福岡(駿台予備校福岡校)です。受験料負担を軽減し、どの学部でも最大 3 学科(専攻)まで併願受験可能で、併願受験割引もあります。

(1 学科 35,000 円、2~3 学科目は 1 学科 17,000 円)

実施学部は医療健康科学部、法律学科フレックス B を除く全学部です。

願書は 10 月中旬に出来上がります。

お問い合わせは、入学センター
03-3418-9048 までお願い致します。

駒澤会行事予定

7 月 11 日(土) 役員会

21 日(火) 駒澤会奨学金授与式

25 日(土) 教育後援会との懇談会

末日 駒澤会だより 12 号発行

10 月 3 日(土) 秋の日帰り研修会予定

11 月 7 日(土) 役員会

12 月 13 日(日)~14 日(月) 予定

駒澤会一泊忘年会

末日 駒澤会だより 13 号発行



本部棟より中庭(パオ)

編集後記

最近、豚インフルエンザ(大学の沿線である田園都市線に女子高生が乗車したというので、すごく身近に迫った観がある)、百年に一度といわれる不況、なんだか暗くなる様な事柄が多く気分も重くなる。就職もなかなか厳しく、学生達も経済的に大変な事も多いのではないだろうか。大阪の橋下知事は、奨学金の返還を訴えたりしている。財政面でも苦しいのであろう。駒澤会では、入会金を基金として返還しなくてよいことになっている。学生達が少しでも助かるのであれば、会としては嬉しいものである。ところが、最近入会者が少なくなってきた。基金を少しでも多くして(入会して頂く事により)学生達をこれからも応援して、すばらしい駒大生がどんどん巣立っていった欲しいものだと思っています。こんな時代であればこそ、奨学金の意味も深く、より頑張らねばと思います。また、「駒澤会だより」の内容もより充実し、皆様にお知らせしていきたいものです。

広報部 藤田



駒澤会だより 第 12 号

発行日:平成 21 年7 月 25 日

発行者:駒澤大学駒澤会 広報部

154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1

TEL03-3418-9189、FAX 9190

駒澤会ホームページ <駒澤大学HPより>

<http://www.komazawa-u.ac.jp> ~

在校生父母の方 ~ 駒澤会クリック